

むかし Matto の町があった

～精神病院から地域精神保健サービスへ～



2010年イタリア国営放送RAIが制作、放映し、視聴率21%を獲得。その後、世界各地で自主上映運動が展開されています。日本では2012年から各地で開催中です。映画は1970年前後のイタリアを舞台とし、1978年の精神病院廃止法（180号法、バザーリア法）の成立までを描いています。史実に沿った約3時間20分の大作。日本語字幕

日時 2014年 7月 26日（土）

会場 IKOZA 2階多目的ホール（渋谷学習センター）

大和市福田2021-2

電話：046-267-2027

参加費 無料

定員 200名

プログラム

12:00

開場

12:30～13:10

開会・挨拶 約10分間

講演 約30分間

講師 大熊一夫氏（ジャーナリスト）

演題 「精神病院を捨てたイタリア 捨てない日本」

13:10～14:46 第一部上映

～休憩19分～

15:05～16:47 第二部上映

申込み 不要

問合せ先 市川 俊幸（電話 046-268-9396）

主催：NPO法人 大和さくら会（精神障がい者家族会）
「バザーリア映画を自主上映する180人のMattoの会」

後援 イタリア大使館、他

協力：RAIフィクション、フランカ&フランコ・バザーリア記念財団、トリエステ精神保健局

上映推進：大和「むかしMattoの町があった」自主上映実行委員会

どんな映画でしょうか

イタリア精神保健改革の20年を描いたイタリア映画です。イタリア語で、「matto」は“狂気を持つ人”、「mattoの町」は“精神病院”を意味します。

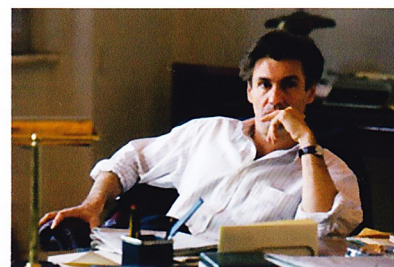
第一部。1960年代のイタリア精神病院の内情、檻に閉じ込められたり、独房のベッドに何年も縛り付けられている患者が描かれ、院長として赴任してきたバザーリアの改革が進められていきます・・・

第二部。トリエステ県の病院に請われて赴任したバザーリアの改革は更に進みます。そして1978年、イタリア中のマニコミオ（精神病院）を廃止する新しい精神保健法（180号法、バザーリア法）が成立します。

以下大和さくら会一会員の感想

患者、家族、一般市民との間に発生する誤解、混乱、偏見、差別。医療機関、行政との間にも諸問題が。これらがダイナミックな映像で迫ってきます。

当時のイタリアと、今の日本が同じという訳ではありません。が、現在の日本でも時折報道される認知症入院患者などへの虐待、差別は、精神障がい者へのこれまでの偏見、差別と根は同じではないでしょうか。この映画は遠い昔の外国の事として片付けられない面を感じさせます。



バザーリア役



第一部の舞台の旧県立病院



講演者 大熊一夫氏の紹介

180人のMattoの会代表。

ジャーナリスト（元朝日新聞記者・元大阪大学大学院教授）

著書「精神病院を捨てたイタリア 捨てない日本」（岩波書店 ¥2400+税）

「ルポ・精神病棟」（朝日新聞社）

アクセス

小田急江ノ島線 高座渋谷駅前（西口）
徒歩1分 IKOZA 2階ホール（渋谷学習センター）

西口＝上りホーム側改札より IKOZAピロティ「学習センター・渋谷分室入口」経由で2階まで

無料駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください。

なお、複合ビル「IKOZA」内には民間駐車場・駐輪場（有料）があります。

